

(寄稿)

日本におけるメディカルツーリズムやヘルスツーリズムの可能性について

＜ 要約 ＞

先進国の中で、観光客がきわめて少ないと言っても言い過ぎではないのが我が国日本である。観光競争力はフランス、スペインを筆頭に、地域・国124の中で31位(2004年世界観光機関統計データより)であり、2007年 アジアランキングでは8位にとどまる。

メディカルツーリズムとは患者が海外旅行をして、旅行者に治療や人間ドック、美容整形、視力矯正手術などの医療サービスを提供するもので、状況により観光と医療サービスをセットにすることもある。さらに医療サービスだけでなく、スパやエステといった健康サービスも含めて、ヘルスツーリズムと呼ぶ場合もある。

医療を目的に日本に観光客をあつめられないだろうか？日本へのメディカルツーリズムは、日本での医療が進んでいるという証であるので、行われてもいいのかもしれない。

日本における現時点での医療の状況は、いわゆる医療崩壊という激震が医療業界を襲っている。しかし、一方では、医療を産業として再認識し、21世紀の基幹産業のひとつとして、特に内需拡大としてとらえるべきだ、という意見も散見される。最先端技術の研究開発という視点、および新しいサービスの創出による内需の拡大、という二つの産業政策の視点を持つことは特筆である。2007年の通商白書によれば、2006年に医療サービスを受ける目的でアジアを訪れた外国人旅行者数は180万人に達し、その市場規模は約7,800億円に上るとされる。

また、医療は多くの雇用を創出できる産業であるという特長を持つ。これは、医療が労働集約的な仕事であることが理由になる。ただし、この点には注意が必要で、医療自体は労働集約的なサービスであるが、普通のサービスと単純に比較できない点もある。

日本へのメディカルツーリズムは可能なのだろうか？回答は難しいが、筆者は半分は楽観的に考えている。医療レベルは、現在においては諸外国と引けを取らない。また、日本人のホスピタリティには定評があるためである。

課題としては、マーケティングが行われていないために、日本という国自体も含めての認知が低い点だろう。他にも、当該施設への第三者認証、あるいはツーリズムのコーディネート業やプランに対する第三者認証も不可欠に近いと考えている。

2010年2月15日

Healthcare note

(No. 10-03)

多摩大学 統合リスク
マネジメント研究所
医療リスクマネジメント
センター
教授 真野 俊樹

編集主幹
野村ヘルスケア・サポート&
アドバイザリー株式会社
市川 剛志

野村證券株式会社
法人企画部